

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者 北原 佐恵子 (単独)
2. 山城/ルート 穂高連峰 ジャンダルム縦走
3. 交通手段 車
4. 行動記録

<入山日 2017年 9月 26日。 下山日 2017年 9月 28日>

第1日 新穂高温泉(ロープウェイ)→西穂高口→(1:00) 西穂山荘 泊

第2日 西穂山荘 4:10→(2h 40m) 6:50 西穂高岳 7:05→(1h 55m) 9:00
天狗の頭 9:10→(2h 10m) 11:20 ジャンダルム 11:50→(1h 00m) 12:50
馬の背通過→13:10 奥穂高岳 13:15→(40m) 13:55 穂高岳山荘 泊

第3日 穂高岳山荘 8:20→(2h) 10:20 湊沢ヒュッテ 10:40→(2h 30m) 13:10
横尾 13:15→(2h 25m) 15:40 上高地バスターミナル

感想

2シーズンぶりの穂高連峰はやはり雄々しく、神々しかった。

26日未明に愛車のインプレッサで自宅を出て、一路長野県新穂高温泉に向かう。深山荘の無料駐車場はいつも週末は満車なのに、今日はそこそこ空きがある。

平日の醍醐味である。懐かしいロープウェイで西穂高口までは紅葉目当ての観光客が多い。今日の宿、西穂山荘までは約一時間で到着した。結構早かったので、自分なりに安心した。

今日の宿泊者はやはり少ない。夏の喧騒が嘘のようである。のんびりビールをいただき、明日に備え装備の点検と、雨が降らぬよう神様をお願いする。今回は骨折後と言う事もあり、荷物の軽量化に神経質になった。カメラも持たず、まだまだ初心者のiPhoneのみなので、写真はまあ無くてもいいかと思っている。

山荘のテレビでは、明日いっぱい何とか天気は持ちそうとの事なので、安心して眠りについた。

翌日 4時過ぎに山荘を出発、真っ暗の中、先行する登山者の後を追う。さすがに平日なので先行するのは2チームのみ。後ろを振り返ってもヘッドランプの明かりは見え、ほんの少し不安になった気分を奮い立たせる。

何度も登ったルートなので、慎重かつ大胆に登って行く。西穂高岳に到着した時はもう明るくなっており、間の岳、天狗の頭がどっしりとその豪快到でカイ山容で私を拒否しているように思えた。

直ぐにストーンと岩場が落ちており、ここからが細心の注意を払いながら、岩場の登り、下りの連続である。注意深く岩に記されたペンキマークを外さないように進む。

今回はトレーニング不足の為に日程をずらし、トレーニングに励んだが、まだまだ不足のようだ。とにかく間の岳。天狗の頭、壘岩尾根の頭の登りが辛かった。ジャンダルム前のコルに到着し、ジャンダルムを見上げた時はいままで登った中で最も嬉しかった。

いつものように、ジャンダルムと書かれた細い板を持ち、奥穂高岳山頂をバックに慣れない自撮りに挑戦!!! この辺りから雲行きが、俄かに怪しくなってきた。ここまで天気に恵まれ、神様っているんですね。ロバの耳に到着し、ナイフリッジをゆっくり登る頃には、奥穂高岳の頂上の祠辺りも全く見えなくなっていました。



奥穂高岳の頂上も登山者が5名ほど居ただけである。寒くなってきたので、早々と穂高岳山荘に向かう。

山荘でも、いつもは3回転する夕食が1回転のみという少なさである。おかげで、部屋も空いており、ゆっくり休んで、ビールをいただく。本当に至福の時である。東京からの夫婦登山者と仲良くなり、クライミング談義に花が咲き、時を忘れる程楽しかった。

ところが、翌日は土砂降りである。風も強いので、前穂高岳への縦走は諦め8時過ぎまで山荘内で風が収まるのを待ち、ザイテングラートを下山する。紅葉の時期とて、大勢の登山者が登ってくるため中々進まない。横尾に到着した時は、もう13時を超えていた。

今回の縦走は仲間たちから、励ましと、罵詈雑言(本当はみんな優しい人達です)を貰い、65歳という年齢にちょっと足掻いてみたかった山行でした。



5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか?

3日目は土砂降りの雨となり、予定を変更してザイテングラートを下山した。

b) 事故に繋がりそうな要因(ヒヤリハット)が発生したか?

特になし。

6. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記載する

今回はルートファインディングが難しかった。ペンキが薄くなっている箇所が多かった。